

1日目の活動スケジュール

時間	活動内容
7:30	取手市福祉交流センター集合
7:40	出発式
8:00	取手市出発
12:00	みなかみ町到着
12:15	昼食
13:00	みなかみ町を知る講話
14:00	草刈り整備作業
17:00	飯ごう炊飯
20:00	入浴
20:40	オリエンテーション
21:45	就寝

変更点

前年度の事業内容との違い

植樹予定場所である「中野の森」での草刈り整備作業を新規で実施しました。人の手によって維持されている森林を守るために、植林するだけでなく管理し続けることの大変さを学びました。

● 出発式

午前8時に取手市福祉交流センターで出発式が行われ、ツアーに参加することもたちとその保護者のかたをはじめ、中村市長と石塚教育長が参加しました。出発式では、中村市長から激励の言葉が送られ、こどもたちはみなかみ町への出発に向けて期待に胸を膨らませている様子でした。



● みなかみ町到着

バスに揺られること約4時間、無事に群馬県利根郡みなかみ町に到着しました。一般社団法人みなかみ町体験旅行の現地添乗員のかたと合流し、宿泊先である『源泉湯の宿 千の谷』で昼食を食べました。



● みなかみ町についてのお話

まず始めに、みなかみ町の概要や観光資源の紹介、みなかみ町の豊かな自然環境を守る活動について、みなかみ町役場観光商工課の職員のかたからお話がありました。みなかみ町は、平成29年にユネスコエコパークに登録され、水や森林をはじめとする豊かな自然環境を守るために様々な取組を行っています。みなかみ町で古くから地域に根付いている地場産業やその特性を活かしたみなかみ町の魅力

についての紹介があり、こどもたちは興味津々の様子でした。また、みなかみ町と取手市との利根川を通じた繋がりを知ることで、普段何気なく使っている水資源の大切さを再認識するとともに、みなかみ町をより身近に感じることができました。



● 草刈り整備作業

高島山の山道を走ること約30分、ぽっかりとひらけた緑地が目の前に広がりました。この『中野の森』と呼ばれる約15ヘクタールほどの広さがある牧場跡地で草刈り整備作業を行いました。



はじめに、みなかみ町役場観光商工課の職員のかたから、『中野の森』についての説明を受けました。『中野の森』では、平成26年度から東京都中野区がみなかみ町と連携して整備活動を行っています。そして、この活動で得られる二酸化炭素の吸収量によって、カーボンオフセット(日常の経済活動において排出される二酸化炭素の削減に取り組んだうえで、それでもなお削減しきれない二酸化炭素の排出量を、他の場所で実現した二酸化炭素排出削減分で埋め合わせをすること)を着実に進める『中野の森プロジェクト』に取り組んでいます。



『中野の森』の活動背景について理解を深めたあと、職員のかたから草刈り鎌を受け取り、『中野の森』での草刈り整備作業が始まりました。雑草の根本部分に鎌を差し込み、手前に引きながら土を削るようにして駆除していきます。こどもたちの背丈ほどある雑草も多く生えていて、苦戦するこどもたちも多く見受けられましたが、約1時間半かけて一帯をきれいに刈り取ることができました。



● 飯ごう炊飯

1日目の夕食は、ホテルの敷地内にある自然豊かな飯ごう炊飯会場でカレーライス作りを行いました。スタッフのかたの指示をよく聞きながら、野菜を切ったり、かまどで火を起こしたりとみんなで協力して作業を進めることができました。また、自らご飯をよそうことで自分の食べられる量を把握し、食べも

のを大切に残さずに食事をしている子どもたちの姿が多く見られたのが印象的でした。



2日目の活動スケジュール

時間	活動内容
7:00	起床
7:30	朝食
9:30	植林体験
11:30	昼食
13:00	地元の小学生との交流体験
17:00	入浴
18:00	夕食
19:00	熊撃ち猟師講話
20:00	オリエンテーション
22:00	就寝

変更 点

前年度の事業内容との違い

みなかみ町の新治小学校に協力していただき、学童の小学生との交流体験を新規で実施しました。地域が異なる同世代の子どもたちとの交流の場を提供することで、社会性と協調性の向上を図ることができました。

● 植林体験

1日目に草刈り整備作業を行った「中野の森」で植林体験を行いました。はじめに、森林の役割とその働きについてお話を聞きました。森林は、木材の生産、国土の保全、水資源の貯留など、多面的な役割を担っています。森林によって私たちの日々の暮らしが支えられていることを学んだ子どもたちは、今回の体験活動の意義を改めて再認識し、より活動意欲が高まった様子でした。その後、現地添乗員のかたから植林体験を行ううえで注意することについてお話を聞き、高さ50cmほどのコナラの苗木とシャベルを受け取りました。苗木を優しくポットから外し、シャベルで深く掘った穴に苗木を植えたあと、その上から足で土を強く押し固めます。約1時間で70本のコナラの苗木を植えることができました。



その後、みなかみ町の植林体験の目的について改めて振り返りました。現地添乗員のかたから、今回、『中野の森』に植林した理由についてお話がありました。人が一度手を入れた自然は一生人が関わり続けないと守ることができないことを子どもたちに伝え、自然環境と自分たちとの関わりについて深く考えるきっかけになりました。また、『中野の森』での植林体験を通して、子どもたちの森林環境の保全への意識を高めるだけでなく、カーボンオフセットといった地球温暖化の抑制への理解促進を図ることができました。

● みなかみ町の小学生との交流体験

みなかみ町新治地区にあるみなかみ町立新治小学校を訪問し、現地の子どもたちとの交流を図りました。はじめに、校舎内の教室でアイスブレイクを行いました。テーマに沿った共通点を探してその場でグループを作るといった様々なレクリエーションを行い、アイスブレイクを通して打ち解け合った様子でした。



● エッセンシャルオイル作り体験

アイスブレイクの後は、エッセンシャルオイル作り体験を行いました。みなかみ町で建築業のかたわら、エッセンシャルオイル作りをしている山口長士郎(やまぐちちようしろう)さんから、エッセンシャルオイルの抽出の仕方などを教えてもらったあと、香りづくりに使用するオイルの香りの見本が配られました。それぞれのオイルの香りを嗅いで、感じたことや思ったことを言葉で表現しお互いに共有し合うことで、子どもたちの主体的かつ自発的な思考を促すことができました。子どもたちは、エッセンシャルオイルにどの香りを使いたいのか、その割合や量をどうするのかグループごとに話し合い、オレンジやローズマリーなどの7種類のオイルを自由に調合して、みなかみ町の香りをイメージしたエッセンシャルオイル作りを楽しみました。みなかみ町の子どもたちと取手市の子どもたち、それぞれが思い描くみなかみ町の香りを1つにまとめることができました。





● 新治小学校の校舎探検

エッセンシャルオイルづくりを楽しんだあとは新治小学校の校舎を探索しました。新治小学校の児童がそれぞれの施設を紹介してくれ、体育館や図書館などを自由に回りました。取手市の小学校とは作りが異なる校舎を見て回り、ボール遊びをしたり実際に教室の椅子に座ってみたりしながら活発的に交流を楽しんでいることもたちの様子が印象的でした。





● 熊撃ち猟師のお話

講師の高柳盛芳(たかやなぎもりよし)さんは、関東最後の秘境である奥利根でわずかな痕跡を頼りに行動を推理し、熊を1対1で追い詰める『しのび猟』を約45年続けています。そのかたわら、町内や周辺の湖で釣りや自然のガイド、自然保護の活動も行っています。



実際に高柳さんが熊を仕留めたときのリアルな体験談を聞いたこともたちは興味津々の様子で多くの質問を投げかけていました。その後、高柳さんは、仕留めたシカの頭蓋骨やテンの毛皮、実際に狩猟で使用しているナイフなどをテーブルの上に広げ、子どもたちに触れさせてくれました。講話を通して、森を守るためには鳥獣の計画的な捕獲や狩猟が必要であることを知り、生物多様性の保全について学びを深めることができました。





また、高柳さんは、みなかみ町の山や川で採れる代表的な植物や魚といった自然の恵みについても紹介し、みなかみ町に暮らす人々は古くから山や川といった自然を相手に働きかけ、得られる恵みを上手に利用しながら農業や林業などに営んできた歴史を説明しました。自然環境における生態系の循環についても触れ、生態系の多様性やバランスを維持し続けることの大切さと難しさをこどもたちに伝えました。

3日目の活動スケジュール

時間	活動内容
6:30	起床
7:00	カートンドッグ体験
9:00	ボートアドベンチャー(湖面清掃、レイクラフティング)
12:30	昼食
13:30	みなかみ町出発
18:00	取手市役所到着 解散

● カートンドッグ体験

ホテルの敷地内にある飯ごう炊飯会場でカートンドッグ体験を行いました。カートンドッグとは、炭やコンロなどを使わずに牛乳パックを燃やして作るホットドッグのことです。パンにソーセージとチーズを挟み、アルミホイルに包んだパンを牛乳パックに詰めて着火し、牛乳パックが燃え尽きればホットドッグの完成です。アウトドアな食育体験を通して、仲間たちと一緒に楽しい思い出を作ることができたようでした。





● ボートアドベンチャー

最終日の3日目は、赤谷湖(あかやこ)でのボートアドベンチャーを行いました。はじめに、ラフティングインストラクターのかたから、レイクラフティングについて説明がありました。レイクラフティングは、8人乗りのゴムボートに乗り込み、みんなで力を合わせて湖面を漕ぎ進むアウトドアアクティビティです。また、周囲の自然や鳥のさえずりに耳を澄ませ、澄んだ水辺では魚や水生昆虫を探するなど、ゆったりとみなかみ町の自然を満喫することができます。初めてレイクラフティングを体験することもたちも多くいたことから、乗船前に、インストラクターのかたが落ちた時の対処法やパドルの持ち方などを丁寧に教えてくれました。

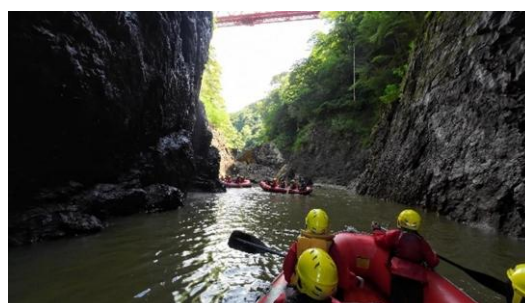


また、インストラクターのかたから、「ラフティングの最中に湖に浮かんでいるゴミを見つけたら拾ってみよう」といったお話がありました。赤谷湖は、利根川の支流である赤谷川によって形成され、みなかみ町内で利根川に合流し、下流の取手市に流れていきます。赤谷湖を綺麗にすることは、利根川を綺麗にすることに繋がることに気がついたこともたちは、ゴミ箱とパドルを片手に意気揚々とボートに乗り込んでいきました。



レイクラフティングでは、湖への飛び込みやパドルを使った水のかけあいを楽しみながら涼をとりま

した。コースの途中には両側が大きな岩に挟まれた渓谷のような場所があり、こどもたちは苔の生えたごつごつとした岩に触れたり、小さな滝のそばで水しぶきを浴びたりしました。最後にはどの班が一番早くゴール地点まで到着できるかボートレースを行いました。



約1時間弱のボートアドベンチャーを楽しんだこどもたちは、五感を最大限に活用して森が育んでくれた水資源の大切さを学ぶことができた様子でした。また、赤谷湖はダム湖であることから、ダムがどのような役割を果たしているのか、改めて都市と地方の繋がりを考えることで、環境保全の観点から社会課題への興味関心へ結びつけることができました。

● 現地添乗員のかたのお話

ボートアドベンチャーを終えたあと、宿泊先のホテルに戻り、現地添乗員のかたからボートアドベンチャーの振り返りを行いました。現地添乗員のかたは、ボートアドベンチャーでの湖面清掃でこどもたちが拾ってきたごみを目の前に並べ、「どういった経緯でこのごみが赤谷湖まで流れ着いたのか考えてみよう」と提案しました。まずはごみが漂流している原因や背景を考えることで、今後ごみを増やさないための効果的な取組をより明確化することができたようでした。環境問題に対して、一人ひとりができることを考え、そして実際に行動に移し、その行動を周りに広めることが大切であることを伝えると、こどもたちからはこれまでの活動体験に結びつけた具体的な行動の提案が飛び交いました。



宿泊先のホテルの管理人のかたに3日間のお礼を伝えたあと、谷川岳ドライブインでの昼食を済ませた子どもたちに、現地添乗員のかたからカスタネットのプレゼントがありました。みなかみ町が発祥のカスタネットは、みなかみ町の森林にある木を板にして、職人のかたの手作業で一つ一つ丁寧に作られています。現地添乗員のかたからは、小学校で使われているカスタネットの多くはみなかみ町で作られていると説明があり、子どもたちは身近なところでみなかみ町の木材が使われていることに驚いた様子でした。現地添乗員のかたやみなかみ町役場のかたに別れの挨拶を告げた子どもたちは、自然と文化と人の魅力に溢れたみなかみ町をあとにし、取手市に向けて出発しました。



● ツアーの締めくくり

午後6時頃に取手市役所に到着し、無事に2泊3日の行程を終えました。豊富な森林資源を活かした様々な体験活動を通して、森林整備や林業に対する理解と関心を高め、子どもたちの環境意識向上を図ることができました。また、3日間ともに過ごした友人たちや体験活動で関わった大人たちとの関係性の構築によって、子どもたちの自由で豊かな発想と自発的な行動を引き出すことができ、子どもたちの豊かな成長を支える多様な環境教育と新たな学びのフィールドを提供することができました。